

中学校区におけるめざす子ども像 未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決を通じて社会を継続・発展させていくことができる「主体的に考え行動できる子ども」

令和5年度 重点目標

- ◎人材の育成： OJTを通して（学校全体） ○学習規律の構築と、人権教育の推進（全学年） ○いじめや不登校の未然防止と、学びの機会の確保（全学年） ○健やかな体の育成と、子どもの安全確保（全学年）
 ・『根拠をもって伝える力』の育成と、ICTの効果的な活用の研修（研修委員会） ・インクルーシブ教育の構築と、多様性を認め合える人間関係の形成（研修委員会） ・暴力やいじめを許さないという、人権意識や規範意識の醸成（生活指導委員会）
 ・いじめ・不登校対策委員会での、組織的な早期支援体制の実践（生活指導委員会） ・コロナ禍前の教育活動に対応した、持続可能な体育・保健教育活動の実践（保育給付委員会） ・安全教育・防災教育・食育指導の推進と、安全が担保される環境整備（保育給付委員会）

「確かな学び」の現状

令和4年度の「全国学力・学習状況調査」および大阪府の「すぐすぐカッヂ」の結果からは、令和3年度同様5～6年において比較的安定した学力が定着していることが確認できた。そこで、今年度の研究主題を「自分の考え方や思いを根拠をもって伝え合うことができる子どもの育成～「伝える」から「伝え合う」授業をめざして～」に沿った実践を通し、公開授業を行う。公開する場面は、主題に沿った提案が最も効果的に表れる授業場面で行う。このような取り組みを通して、より「確かな学び」の定着を図っていきたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

本校の学校教育目標は「学び合う子 助け合う子 たくましい子の育成」である。いじめと認められる事例もあることから、「相手の立場を思いやり、豊かな心や秩序を重んじる」「社会性を身につけるための規範意識の育成を進める」「いじめを許さないという人権意識の醸成」を中心に行う。豊かな心の育成に必要不可欠なのは、いじめや不登校の早期発見・早期解決である。指導の重点として積極的な生徒指導・不登校対策委員会の積極的な活用・不登校（傾向のある）子どもへの、学びの機会を確保・非行防止・犯罪被害防止教室など堺少年サポートセンターや警察署と連携して実施していきたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況（年度末）			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	ICT	ICTを活用した各学年で定められた情報活用能力の知識及び技能の習得	ICTを活用した学習展開の工夫をめざし、研修や授業研究に取り組む。	・「グレットを活用した授業ができる」の肯定的評価80%以上 ・学期に1回以上の職員研修	教員アケート	1月	A	全学級、複数の教科においてグレットを活用した授業に取り組むことができている。	A	「グレットを活用した授業ができる」アケートでは肯定的評価が95.0%となり、達成することができた。情報活用能力や情報モラルを習得できていると感じている児童が89.5%で、グレットを活用した授業アケート実施月の会議で、活用状況や実践の共有をすることができた。	
			児童1人1台パソコン活用推進のため、情報活用能力や情報モラルを育む授業を実施する。	各学年の目標について「できている」の肯定的評価80%以上	学校教育アケート	1月	A	ICTにおける知識及び技能が習得できてきていることを教職員で共有している。	A	授業の様子を見ていると、特に高学年がしっかりとグレットを使いこなせていることに驚いた。教師も効果的にグレットを用いて授業ができていると感じた。	
	人権教育	相手の立場にたって自ら考え、行動できる児童の育成	全学年で系統立てた道徳と人権の授業を行い、どの子も安心して学校に通えるように、相手を思いやる気持ちを涵養する。	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定的評価85%以上	学校教育アケート	1月	A	各学級において道徳の時間などに、目標に沿った話をしている。	A	授業参観での子どもたちの様子を見ていると、お互い声を掛け合いながら活動する優しい姿が見られた。	
	授業づくり	自分の考え方や思いを根拠をもって伝えることができる児童の育成（小中一貫グランドデザインに基づく）	●★低・中・高学年ごとに定めた伝える力の目標をめざした授業研究に取り組む。	「児童が自分の考えを伝えられるように指導方法の工夫を行った」の肯定的評価80%以上	教員アケート	1月	A	研究授業において、ひな型を設定して発表させるなど自分の考えを伝えることができるよう工夫が見られた。	A	どの学年も落ち着いて学んでいた。話し合いの場でも、活発に話し合いをする姿が見られた。	
			★話し方・聞き方の型を用いて伝える力の基礎の定着を図る。	「会話やグループ・ペアで話すときは、自分の考えを伝え、友だちの意見もしょっちり聞いていている」の肯定的評価80%以上	学校教育アケート	1月	A	各クラスの授業でグループ活動やペア学習の際は、自分の考え方を述べたり他の人の意見にうなずいたりする姿が見られた。	A	「話す・聞く」の型も大事だが、興味関心を高める導入の工夫、思考を深めるための教師の働きかけを今後も追及していくべきだ。生き生きと学ぶ子どもの姿を期待している。	
			★学校生活全体を通した「伝える場」を設定し、伝える習慣をつくる。	「学校生活の中で会話やグループ、ペアで話すことができた」の肯定的評価80%以上	学校教育アケート	1月	A	授業において、グループ活動やペア学習を多く取り入れ、そのなかで自分の考えを伝える姿が多く見られた。	A		
豊かな心	人権感覚	一人ひとりを尊重し、温かい人間関係づくりができる児童の育成	いじめについての正しい知識をもたせ、生活のなかで活かせるようにさせる。	「いじめられている子を助けたいと思う」についての項目で肯定的評価80%以上	学校教育アケート	1月	A	各学級において道徳の時間などに、目標に沿った話をしている。	A	学校での様子を見ていると、お互い助け合う姿も見られるが、いじめが発生している事実もある。職員が一体となっていじめは許さるも出ではないという認識をもって、教育活動に取り組んでいってほしい。	
	規範意識	自分も他人も大切にし、率先してあいさつができる児童の育成	●学校のきまりを職員全員が共通理解し、児童に発信することにより、規範意識の醸成を図る。	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価80%以上	学校教育アケート	1月	A	全校朝会や学級指導等、様々な場面で規範意識を高めるための指導をおこなっている。生指委員会で各学年の状況を共有し、その後の指導に生かしている。	A	学校生活における生活規律については、各先生方一人ひとりの意識のもち方が重要である。「きまりだからだめ」ではなく、そのきまりについての理由について、教員全体で共通理解をはかり、「どの先生も同じことをいっている」という指導が必要である。	
			教師の率先垂範とあいさつ週間の充実により、あいさつの励行を進める。	「学校で先生や友だちに自分から進んであいさつをしている」の肯定的評価80%以上			A	あいさつ週間を活用して、あいさつの大きさを指導している。1学期のあいさつ週間と2学期のあいさつ週間の両方とも目標達成率80%を越えている。	A	あいさつは「おはようございます」だけではない。「ありがとうございます」「ごめんね」など、日常生活には欠かせない人と人が気持ちよく生活できる言葉である。子どもたち同士、より良好な人間関係の構築のため、今後も引き続きお願いしたい。	
健やかな体づくり	健康な体づくり	●生活習慣健康度チェックアケートを実施し、規則正しい生活（特に朝ごはん）の定着をめざす。 健康な体づくりを主体的に考え、実践する子どもの育成	保護者アケートにおいて、「あてはまる」の項目90%以上	学校教育アケート 生活習慣健康度チェック	1月 毎学期末	B	生活習慣健康度チェックの内容を含む学校教育アケートを3学期に実施予定。	A	アケート結果で生活習慣に関する肯定的な評価は90.7%で、規則正しい生活習慣の定着が図れている。しかし、体力づくりでの肯定的評価は77.5%と低い。おうち体育等、本校独自の継続的な体力づくりの取組を進めているが、児童により取り組み方に差が見られ、消極的な児童をいかに活動に巻き込むかが今後の課題である。	A	栄養教諭、養護教諭が主体となった生活習慣の取り組みの継続発展を期待する。「おうち体育」の取組の継続もお願いするとともに、どのような成果があったのかについて分析もお願いしたい。ただ、運動場が狭いので運動場での活動が制限されることはある。
			児童一人ひとりが個々の課題を知り、自ら実践する力を育成するための取組を行う。	体力づくりの項目での肯定的評価80%以上	新体力テスト 学校教育アケート	5月 1月	B	5月に新体力テストを3～6年で実施。学校教育アケートは3学期に実施予定。	B		

校長より（年度末） 今年度も11月から二学期末にかけて、また1月中旬から2月末にかけてインフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖が相次ぎ、学校協議員の皆様に学校にお越しいただき、協議委員会を行なうことができなかった。そのため、1学期の体育参観や、2学期の日曜参観、3学期の卒業式にお越しいただき、感想をお伺いさせていただいた。いただいたご意見は、次年度に生かしていきたいと考えている。

学校関係者評価者から（年度末）

- 地域、保護者、学校がつながりをもって児童の教育に携わり、子どもに様々な体験をさせて育てていってほしい。
- 人権意識や自尊感情をさらに育んでいく取り組みをすすめてほしい。